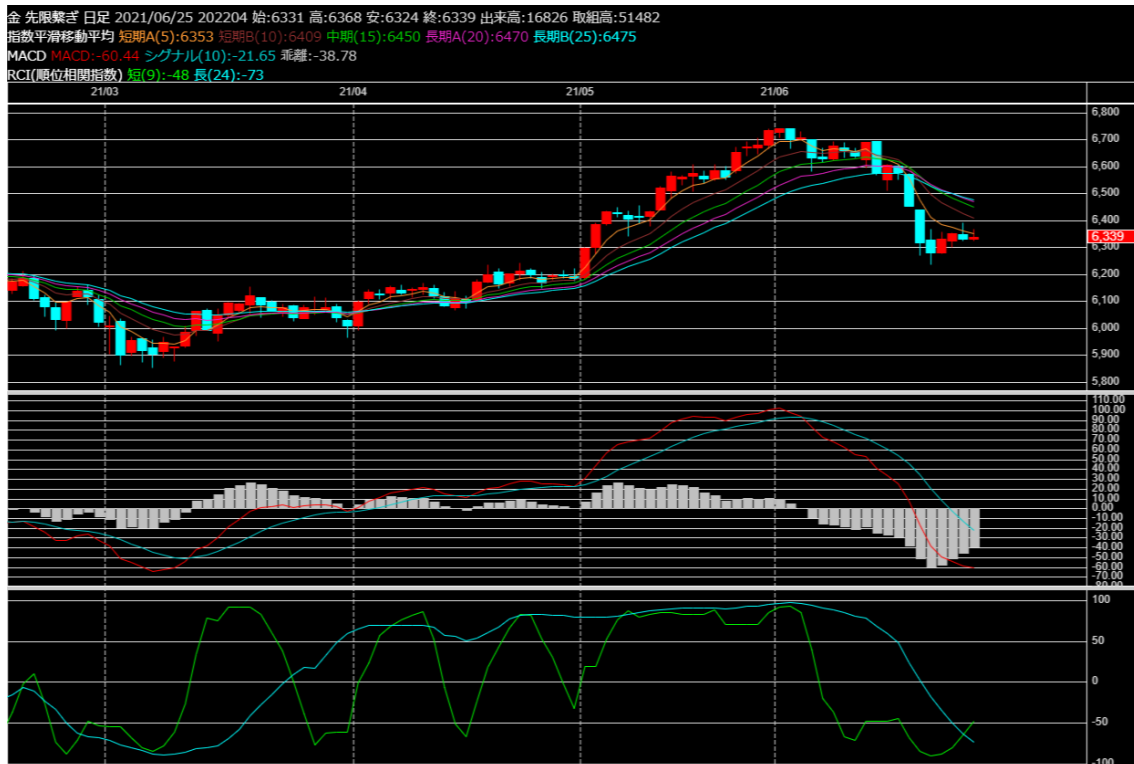


＜金標準、6300 円を中心に上下 50 円程度のレンジ相場＞



(出所：オアシス)

金標準先物は、FOMC を機に一時テーパリングの協議開始やドットチャートが示す早期の利上げ観測を織り込み、6232 円まで下値を試すなど、FOMC 以降は 344 円の下落を行っている。しかし連銀総裁のブラックアウトも明けて 2021 年の FOMC メンバー以外の連銀総裁はインフレの高まり懸念を強調し、早期の利上げ発言を行っているが、FOMC メンバーであるパウエル FRB 議長やウィリアムズ NY 連銀総裁などは、一時的なインフレ高であり、2%に向けて落ち着きを見せる事から、利上げは先の話であると強調している。

またバイデン大統領と上院超党派は 63 兆円規模の経済対策で合意した事が報じられるなど、テーパリング要因も織り込まれリスク・オンの動きを市場は強めた状態である。

そのため今週の金標準先物は、下値不安が低下し 6300 円中心に上下 50 円程のレンジ相場を繰り返す可能性が高いと予想され、逆張り相場の値動きに合わせた商いに注意したい。

(2021 年 6 月 27 日記載)

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI (短期・長期) で見た場合は、RCI において短期が長期を上回る買いサインが発生しているが、MACD では依然と MACD とシグナルのクロスは発生していない。ただ MACD とシグナルの乖離を示すヒストグラムは縮小しており、今週の安値 6232 円で目先の安値の達成感が出始めてもおかしくない。特に直近の高値 6392 円を超えると指数平滑移動平均線のレンジ内に入り、6487 円に向けた戻りが予想される。